

H27-B-2 85.58~88.43m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
記事				記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)				記事を削除・変更・追記した理由			
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事	
コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?				適正化した記事内容			
<input checked="" type="checkbox"/>				<input checked="" type="checkbox"/>							
343	85.58	85.76	破砕帯(主せん断面85.63m) H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ5~10mm、硬さ「D」岩片と岩片間の粘土部から「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5mm石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)、厚さ35mm/m	85.58	85.76	破砕部(最新活動面85.63m) H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ5~10mm、硬さ「D」岩片と岩片間の粘土部から「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5mm石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)、厚さ35mm。 やや硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	用途の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、下位のHc-2の粘土に変更した。 表現の適正化(灰黄、mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)	85.58	85.76	●85.58~85.76m:破砕部 85.58~85.63m:粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にふい褐色を呈する。幅100~120mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
344	85.58	85.63	H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(方角)。色調は淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ5mm/m	85.58	85.63	H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(方角)。色調は淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	壁を含む破砕部内物質の名称を変更した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の統一(方角→Hc-2)に含んで表現 ・表現の適正化(mm) ・転記の修正(不明⇒不明瞭「色」の記載漏れ)	85.58	85.63	●85.58~85.76m:破砕部 85.58~85.63m:粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にふい褐色を呈する。幅100~120mm。	
345	85.63	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(方角)。色調は淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ5mm/m	85.63	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm、硬さ「D」岩片を10%含む軟質粘土(方角)。色調は淡黄(2.5Y 6/3)、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	壁を含む破砕部内物質の名称を変更した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の統一(方角→Hc-2)に含んで表現 ・表現の適正化(mm) ・転記の修正(不明⇒不明瞭「色」の記載漏れ)	85.63	85.64	●85.58~85.76m:破砕部 85.58~85.63m:粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にふい褐色を呈する。幅100~120mm。	
346	85.64	85.76	H 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は淡黄(2.5Y 6/3)~にふい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm/m	85.64	85.76	H 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は淡黄(2.5Y 6/3)~にふい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm。 やや硬質、含まれる細粒部は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の適正化(mm、軟質⇒軟質、せん断面) 主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、上位のHc-2の粘土に変更した。 ・転記の修正(「色」の記載漏れ)	85.64	85.76	●85.58~85.76m:破砕部 85.58~85.63m:粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にふい褐色を呈する。幅100~120mm。	
347	85.76	87.47	CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。	85.76	87.47	CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。	・表現の適正化(治い)	85.76	87.47	85.76~87.47m:CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。前者では一部で割れ目ぞいが砂状化する。	
348	85.76	86.00	石英をφ10mm/斑点状~幅2mm、20'脈状に含む。	85.76	86.00	石英をφ10mm/斑点状~幅2mm、20'脈状に含む。	・表現の適正化(mm)	85.76	86.00	85.76~86.00m:径10mmの斑点状や幅2mm、20'の脈状に石英を含む。	
349	87.47	84.90	(岩級区分)CH	87.47	87.90	(岩級区分)CL	・転記の修正(84.90⇒87.90) ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	87.47	87.90	(岩級区分)CLに含める	
350	87.47	84.90	CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部で中着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。	87.47	87.90	CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部で中着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。	・転記の修正(84.90⇒87.90)	87.47	87.90	87.47~87.90m:CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部で中着割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。	
351	87.90	88.38	CL 割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。密着度の低い中着割れ目が多く、ハンマーの打撃で中着割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	87.90	88.38	CL 割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	・表現の適正化(治い) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。 ・潜在割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	87.90	88.38	87.90~88.38m:CL 一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	
352	87.90	88.42	(実質欄)3ランク	87.90	88.42	(実質欄)2ランク	・実質の程度が異いため実質のランクを2ランクに変更した	87.90	88.42	(実質欄)2ランク	
353	88.38	88.43	(岩級区分)D	88.38	88.43	(岩級区分)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	88.38	88.43	(岩級区分)CLに含める	

H27-B-2 88.38~91.47m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
354	88.38	88.43	破砕帯(主せん断面88.43m)	88.38	88.43	破砕部(最新活動面は88.42mか88.43mの可能性 がある)	88.38	88.43	用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性がある箇所を追記した	88.38	88.43	●88.38~88.43m:破砕部 88.38~88.42m:砂混じり岩片状部(H4) 傾斜50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
355	88.38	88.42	H4 50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35mm/m	88.38	88.42	H4 50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35mm/m 硬軟、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	88.38	88.42	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、下位のHe-1の粘土に変更した ・表現の適正化(傾斜50°) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	88.38	88.43	●88.38~88.43m:破砕部 88.38~88.42m:粘土・砂混じり岩片状部(H4) 傾斜50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
356	88.42	88.43	He-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10 YR6/8)、厚さ5mm/m	88.42	88.43	He-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10 YR6/8)、厚さ5mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	88.42	88.43	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の修正(「ガウジ」→「He-1」に含んで表現) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	88.42	88.43	●88.38~88.43m:破砕部 88.38~88.42m:粘土・砂混じり岩片状部(H4) 傾斜50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
357	88.43	88.92	(変質帯)3ランク	88.43	88.92	(変質帯)2ランク	88.43	88.92	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	88.43	88.92	(変質帯)2ランク	-
358	88.43	88.88	CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	88.43	88.88	CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	88.43	88.88	・表現の適正化(挟む)	88.43	88.88	88.43~88.88m:CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	-
359	88.88	88.94	破砕帯(主せん断面88.92m)	88.88	88.94	破砕部(最新活動面は88.92mか88.94mの可能性 がある)	88.88	88.94	用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性がある箇所を追記した	88.88	88.94	●88.88~88.94m:破砕部 88.88~88.92m:粘土・砂混じり岩片状部(H4) 傾斜30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達し径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ15~20mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
360	88.88	88.92	H4 30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達し径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ15~20mm/m 硬軟、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	88.88	88.92	H4 30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達し径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ15~20mm/m 硬軟、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	88.88	88.92	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、下位のHe-2の粘土に変更した ・コアに合わせて厚さを変更した ・表現の適正化(mm、軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	88.88	88.94	●88.88~88.94m:破砕部 88.88~88.92m:粘土・砂混じり岩片状部(H4) 傾斜30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHe-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m:糊混じり粘土状部(He-2) 傾斜30°で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径5mmの粘土岩片を約15%含む。軟質、灰白色を呈する。幅15~20mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
361	88.92	88.94	He-2 30°で、上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm粘土岩片計15%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15~20mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	88.92	88.94	He-2 30°で、上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm粘土岩片計15%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15~20mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	88.92	88.94	・硬を含む破砕部内物質の名称を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の修正(「ガウジ」→「He-2」に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)	88.92	88.94	●88.88~88.94m:破砕部 88.88~88.92m:粘土・砂混じり岩片状部(H4) 傾斜30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土層で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHe-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土・砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m:糊混じり粘土状部(He-2) 傾斜30°で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径5mmの粘土岩片を約15%含む。軟質、灰白色を呈する。幅15~20mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
362	88.94	91.69	D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以深はφ3~20mmの硬さ「C」D岩片が残留し、固相が軟質を呈する砂状部を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60°が主体。	88.94	91.69	D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以深はφ3~20mmの硬さ「C」D岩片が残留し、固相が軟質を呈する砂状部を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60°が主体。	88.94	91.69	・表現の適正化(沿い、mm、ほぼ、原岩組織) ・表現の統一(固相⇒硬質) ・文章の適正化(「割れ目の大半は残留し」と「割れ目の一部は残留し」が相反する記載のためコアに合わせて修正した)	88.94	91.69	88.94~91.69m:D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以深は径5~20mmの硬さ「C」Dの岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂状部を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60°が主体。	-
363	90.45	90.81	(色調帯)7.5YR6/3 にぶい橙	90.45	90.81	(色調帯)7.5YR4/2 灰褐	90.45	90.81	・コアに合わせて色調を変更した	90.45	90.81	(色調帯)灰褐	-
364	90.50	90.50	60°、厚2~3mm/mの石英脈が分布	90.50	90.50	60°、幅2~3mmの石英脈が分布	90.50	90.50	・表現の適正化(厚⇒幅、mm)	90.50	90.50	90.50m:60°で幅2~3mmの石英脈が分布。	-
365	-	91.47	91.47m以深では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	-	-	-	-	-	-	91.47m以深では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	

H27-B-2 91.04~94.13m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
366	91.04	91.20	91.04	91.20	91.04mと91.20m割れ目に厚さ1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。	・表現の適正化(mm)	91.04	91.20	91.04mと91.20m: 割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガン、後者では砂を伴っている。	-
367	91.60	-	91.60	-	91.60m以下では径3mm長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。	・長石は下位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に配列していないため、長石の配列についての記載を削除した ・表現の適正化(mm)	91.60	-	91.60m以下では径3mmの長石斑晶が多くなる。	-
368	91.69	91.76	91.69	91.76	破砕帯(主せん断面91.70m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	91.69	91.76	●91.69~91.76m: 破砕部 91.69~91.70m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径0.5mmの微小な石英粒を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(7.5YR7/2)~灰褐色(7.5YR5/2)で連続を呈する。 91.70~91.72m: 縦質粘土状部(Hb) 上端51°で直線的に、下層53°で波打って連続。径1~3mmの石英粒、径5mm前後の硬さD]岩片を約20%含む。色調は灰白色(7.5YR8/1)。厚さ7~12mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
369	91.69	91.70	91.69	91.70	Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5mmと微小な石英粒を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(7.5YR7/2)~灰褐色(7.5YR5/2)で連続を呈する。 上層の一部に白色粘土層とマンガン筋染付。厚さ3~8mm/1。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・色調の違いは見られるが、上端側の明褐色の粘土は境界面が凹凸し、不連続であるため感状という記載は削除した ・表現の適正化(mm)、軟質⇒軟質 ・表現の統一(ガウジ⇒Hc-1)を含んで表現 ・記載の修正(「色」の記載漏れ)	91.69	91.70	Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5mmと微小な石英粒を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(7.5YR7/2)~灰褐色(7.5YR5/2)で連続を呈する。 上層の一部に白色粘土層とマンガン筋染付。厚さ3~8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-
370	91.70	91.72	91.70	91.72	Hb 上端51°で直線的に、下層53°で波打って連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm前後の硬さD]岩片を約20%含む軟質な「縦質粘土」状を呈する。色調は灰白色(7.5YR8/1)。厚さ7~12mm。 細粒部は直線性に乏しい。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・記載の修正(「色」の記載漏れ)	91.69	91.76	Hb 上端51°で直線的に、下層53°で波打って連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm前後の硬さD]岩片を約20%含む軟質な「縦質粘土」状を呈する。色調は灰白色(7.5YR8/1)。厚さ7~12mm。 細粒部は直線性に乏しい。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-
371	91.72	91.76	91.72	91.76	Hc 上端53°で波打って、下層45°で直線的に連続。主せん断面と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5~10mmに岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5~1mm軟質白色粘土層が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状を呈する。色調はふい褐色(7.5YR5/3)。厚さ30~40mm/m	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm)、軟質⇒軟質 ・主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、上位のHc-1の粘土に変更した ・記載の修正(「色」の記載漏れ)	91.72	91.76	Hc 上端53°で波打って、下層45°で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5~10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5~1mm軟質白色粘土層が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状を呈する。色調はふい褐色(7.5YR5/3)。厚さ30~40mm。 硬質、挟在する白色粘土層は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-
372	91.76	94.80	91.76	94.80	CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含む。ハンマーの軽打でφ10~30mmの小岩片に分離・細片化する。	・表現の適正化(mm)	91.76	94.80	91.76~94.80m: CL 密着度が極めて低い割れ目を多く含む。ハンマーの軽打で径10~30mmの小岩片に分離・細片化する。	-
373	-	93.00	-	93.00	93.00m以下はコア長3~5cm主体の短柱状コア。93.00m以下は砕着割れ目も含め、割れ目が密着し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目自体に砂状化することがある。マンガンをはさまが、粘土層は殆んど分布しない。	・表現の適正化(近い、挟む) ・記載の修正(短柱⇒短柱状)	-	93.00	93.00m以下はコア長3~5cm主体の短柱状コア。93.00m以下は砕着割れ目も含め、割れ目が密着し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目自体に砂状化することがある。マンガンは挟むが、粘土層は殆んど分布しない。	-
374	92.09	92.09	92.09	92.09	φ10mm緑泥石が30° 割れ目で横断される切断されるが要注はない。 低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ同方向の割れ目に細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	・緑泥石に寛位は見られないため「切断される」を「横断される」に変更し、寛位についての記載を削除した ・表現の適正化(mm) ・割れ目及び周辺状況について追記した	92.09	92.09	92.09m: 径10mmの緑泥石が30° 割れ目で横断される。低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ同方向の割れ目に細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	-
375	92.18	92.24	92.18	92.24	92.18m・70° ~92.24m・44° 間はφ5~10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。	・表現の適正化(mm)	92.18	92.24	92.18m・70° ~92.24m・44° 間は径5~10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。	-
376	92.65	92.65	92.65	92.65	55° 割れ目に幅2mmマンガンを脈状にはさまむ。	・表現の適正化(挟む、mm)	92.65	92.65	92.65m: 55° の割れ目に幅2mmのマンガン脈を挟む。	-
377	93.81	94.13	-	-	硬さ[B]で割れ目挟在物は分布しない。		93.81	94.13	93.81~94.13m: 硬さ[B]で割れ目に挟在物は分布しない。	-
378	93.81	94.13	93.81	94.13	コアの硬さ欄Bランク	・上記の記事に合わせてコアの硬さのランクをBランクに変更した	93.81	94.13	93.81~94.13m: 硬さ欄Bランク	-

H27-B-2 94.26~101.32m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を書いた記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	適正した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
379	94.26	94.38	φ5~10mmの大型石英斑晶が点在。一部は35~50° 割れ目で切断されている。	94.26	94.38	φ5~10mmの大型石英斑晶が点在。一部は35~50° 割れ目で切断されている。 35~50° 割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	35~50° 割れ目を横断する割れ目割れ目や層状割れ目が見られるため「石英斑晶が切断されている」旨の記載を削除した。 割れ目及び層状の状況について追記した。 ・表現の適正化(mm) ・隔記の修正(点在が⇒点在し)	94.26	94.38	94.26~94.38m: 径5~10mmの大型石英斑晶が点在する。35~50°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
380	94.80	97.96	CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。 挟在物を含まない割れ目が主体であるが、如々に割れ目挟在物が認められる。	94.80	97.96	CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。 挟在物を含まない割れ目が主体であるが、所々に割れ目挟在物が認められる。	・表現の適正化(沿い、挟む、所々)	94.80	97.96	94.80~97.96m: CH 全体が緑灰色化する。概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物のない割れ目が主体であるが、所々、挟在物が認められる。		
381	95.46	95.46	55° 割れ目ぞい幅10~15mmが褐色化し、硬さ[D]に軟質化。上縁側に幅7mm方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	95.46	95.46	55° 割れ目ぞい幅10~15mmが褐色化し、硬さ[D]に軟質化。上縁側に幅7mm方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	・上縁側が必ずしも上縁とは限らないため上縁に変更した。 ・方解石ではなく石英であるため変更した。 ・表現の適正化(沿い、mm、軟質化)	95.46	95.46	95.46m: 55°の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、硬さ[D]に軟質化する。上縁側に幅7mmの石英を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。		
382	95.90	96.00	割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ[D]に軟質化するが砂状部は分布しない。	95.90	96.00	割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ[D]に軟質化するが砂状部は分布しない。	・表現の適正化(mm、軟質化)	95.90	96.00	95.90~96.00m: 割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ[D]に軟質化するが、砂状部は分布しない。		
383	96.60	96.63	割れ目ぞい幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mm砂状部を挟む。	96.60	96.63	割れ目ぞい幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mm砂状部を挟む。	・表現の適正化(沿い、挟む、mm)	96.60	96.63	96.60~96.63m: 割れ目沿いに幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mmの砂状部を挟む。		
384	97.36	97.36	35° 割れ目に淡緑色シルト~粗砂脈は含む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。	97.36	97.36	35° 割れ目に淡緑色シルト~粗砂脈は含む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。	・表現の適正化(挟む)	97.36	97.36	97.36m: 35° 割れ目に淡緑色シルト~粗砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。		
385	97.96	99.44	(変質欄)3ランク	97.96	99.44	(変質欄)2ランク	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	97.96	99.44	(変質欄)2ランク		
386	97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる。 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる。 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	・表現の適正化(沿い)	97.96	98.48	97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。		
387	-	-	-	98.36	98.36	50°の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂挟む。	・灰緑色シルト~粗砂を伴う割れ目は層間と異なる状況であるため追記した。	98.36	98.36	98.36m: 50°の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂を挟む。		
388	98.48	101.31	CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。 99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	98.48	101.32	CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。 99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	・隔記の修正(101.31⇒101.32) ・表現の適正化(沿い、軟質化)	98.48	101.32	98.48~101.32m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。		
389	99.16	99.45	-	-	-	-	-	99.16	99.45	99.16~99.45m: 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。		
390	99.44	99.90	割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	99.44	99.90	割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	・表現の適正化(沿い、軟質化)	99.44	99.90	99.44~99.90m: 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。		
391	99.76	99.90	特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ[D]まで低下	99.76	99.90	特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ[D]まで低下	・表現の適正化(沿い、99.76mの「m」の削除)	99.76	99.90	特に99.76~99.90mでは40°の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は硬さ[D]となる。		
392	99.90	100.00	(変質欄)3ランク	99.90	100.00	(変質欄)2ランク	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	99.90	100.00	(変質欄)2ランク		
393	100.52	101.32	割れ目ぞいの風化・砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ[C]主体で部分的に硬さ[B]が残留。長石は白濁化する。	100.52	101.32	割れ目ぞいの風化・砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ[C]主体で部分的に硬さ[B]が残留。長石は白濁化する。	・表現の適正化(沿い、軟質化)	100.52	101.32	100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化・砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ[C]主体で部分的に硬さ[B]が残留。長石は白濁化する。		
394	100.84	100.89	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm/岩片と共に「砂塊状」量する。	100.84	100.89	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm/岩片と共に「砂塊状」量する。	・表現の適正化(沿い、mm)	100.84	100.89	100.84~100.89m、101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に「砂塊状」量する。		
395	101.23	101.32	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm/岩片と共に「砂塊状」量する。	101.23	101.32	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm/岩片と共に「砂塊状」量する。	・表現の適正化(沿い、mm)	-	-	-	・上記と記事内容が同じであるためまとめ書きました	

H27-B-2 101.32~110.51m

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
396	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟持物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟持物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	・表現の適正化(ほぼ) ・転記の修正(挟持物⇒挟在物)	101.32	102.05	101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟在物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。	
397	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。	・表現の適正化(軟質化)	102.05	104.65	102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で軟質化が進んでいる。	
398	102.05	102.41	約10m/間隔で細かく密着度の低い中着割れ目が多い。	102.05	102.41	約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	・表現の適正化(mm) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。	102.05	102.41	102.05~102.41m: 約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	
399	102.41	102.94	硬さ「B」割れ目主体。割れ目ぞいに1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土部は分布しない。	102.41	102.94	硬さ「B」割れ目主体。割れ目ぞいに1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土部は分布しない。	・表現の適正化(割れ目) ・転記の修正(「割」の記載消滅)	102.41	102.94	102.41~102.94m: 硬さ「B」の割れ目主体。割れ目ぞいに1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土部は分布しない。	
400	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。	・表現の適正化(割れ目、軟質化)	102.94	103.17	102.94~103.17m: 20~30° の割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟化する。	
401	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「中着割れ目」が多い。	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「潜在割れ目」が多い。	・表現の適正化(割れ目) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。	103.17	103.70	103.17~103.70m: 割れ目ぞいの砂状化や挟在物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。	
402	103.70	104.85	風化が進み岩片も含め全体が軟質化している。所々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	103.70	104.85	風化が進み岩片も含め全体が軟質化している。所々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	・表現の適正化(軟質化、所々、mm)	103.70	104.85	103.70~104.85m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に挟む。	
403	104.65	107.15	CM 104.14~104.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	104.65	107.15	CM 103.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	・転記の修正(104.14~104.19⇒105.14~105.19)	104.65	107.15	104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	
404	104.14	104.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて締まった砂状~φ2~3mm細片化する。 下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて硬質な砂状~φ2~3mm細片化する。 下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	・表現の適正化(締った⇒硬質、mm) ・転記の修正(104.14~104.19⇒105.14~105.19)	105.14	105.19	105.14~105.19m: 上下端とも40° の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	
405	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mmに割片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mmに割片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	・表現の適正化(ほぼ、mm)	105.70	105.83	105.70~105.83m, 106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに割片化する。各割れ目には砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	・記事内容がほぼ同じであるため、106.68~106.73mの記事を含めて記載した
406	106.21	106.81	中着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。	-	-	-		106.21	106.81	106.21~106.81m: 中着割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	
407	107.68	107.73	割れ目が交差し、φ10~20mmに割片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	106.68	106.73	割れ目が交差し、φ10~20mmに割片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	・転記の修正(107.68⇒106.68, 107.73⇒106.73、割片化⇒割片化) ・表現の適正化(ほぼ、mm)	-	-	-	・上記と記事内容がほぼ同じであるためまとめ書きした
408	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mmと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mmと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。	・表現の適正化(割れ目、ほぼ、併々、mm)	107.15	107.62	107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	
409	107.60	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30mm程度の密着度の低い「中着割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 108.00~110.10m間は、30~50° の割れ目主体。一部は交差して岩片状を呈する。	107.62	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30mm程度の密着度の低い「潜在割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 108.00~110.10m間は、30~50° の割れ目主体。一部は交差して岩片状を呈する。	・転記の修正(107.60⇒107.62、幅を削除) ・現在化した30~50° の割れ目が発達することは断面と異なる状況であるため追記した。 ・表現の適正化(ほぼ、mm、間隔程度⇒程度の間隔) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。	107.62	115.99	107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mm程度の密着度の低い潜在割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50° の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	
410	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	・表現の適正化(割れ目、併々、mm)	108.57	108.60	108.57~108.60m: 40° の割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	
411	110.40	110.51	白色化した「中着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	白色化した「中着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	・表現の適正化(割れ目)	110.40	110.51	110.40~110.51m: 白色化した中着割れ目ぞいに分離し、開口割れ目化している。	

H27-B-2 111.37~119.47m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
412	111.37	111.37	75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2mm/砂状化。これに交差する30° 割れ目は切られている。	111.37	111.37	75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2mm/砂状化。これに交差する30° 割れ目は止められている。切られていない。砂状化部の分布は遠切れており連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	111.37	111.37	111.37m: 75~80° の割れ目ぞいの一部で幅1~2mm/砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は遠切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	
413	112.41	112.44	5° 前後の割れ目ぞいに片状化。岩片は軟質化しない	112.41	112.44	5° 前後の割れ目ぞいに片状化。岩片は軟質化しない	112.41	112.44	112.41~112.44m: 5° 前後の割れ目ぞいに片状化するが、岩片は軟質化しない。	
414	-	-	-	113.56	113.60	アブライト脈を挟む。傾斜25° 幅4cm。花崗斑岩との境界は明確で中着している。	113.56	113.60	アブライト脈は周囲と異なる状況であるため追記した	
415	113.63	113.81	白色の「仲着割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含まれる。	113.63	113.81	白色の「仲着割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含まれる。	113.63	113.81	113.63~113.81m: 白色の仲着割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。	
416	114.37	115.70	緑色系色調に変化する。	-	-	-	114.37	115.70	114.37~115.70m: 緑色化している。	
417	114.65	114.65	80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着	114.65	114.65	80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹みしているが、割れ目のかみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	114.65	114.65	114.65m: 80~85° の割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹みしているが、割れ目のかみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	
418	115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm/斑点状~幅1mm/脈状で分布する。特に前者が多い。	115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm/斑点状~幅1mm/脈状で分布する。特に前者が多い。	115.33	115.70	115.33~115.70m: 暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm/斑点状~幅1mm/脈状で分布する。特に前者が多い。	
419	115.70	-	115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出。全体の色調が橙色に変化。	115.70	116.40	ベグマタイト。径1~10cm程度の橙色のカリ長石。灰白色の長石。石英が多く晶出し、全体の色調が橙色に変化。	115.70	116.40	115.70~116.40m: ベグマタイト。径1~10cm程度の橙色のカリ長石。灰白色の長石。石英が多く晶出し、全体の色調が橙色を呈する。傾記の修正(115.70⇒116.40)	
420	115.99	116.49	CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm/主体に岩片化している。割れ目ぞいの多くは幅1~3mm/で砂状~細密片状化する。	115.99	116.49	CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm/主体に岩片化している。割れ目ぞいの多くは幅1~3mm/で砂状~細密片状化する。	115.99	116.49	115.99~116.49m: CL 割れ目が細かく分布し、径10~30mm/主体に岩片化している。割れ目ぞいの多くは幅1~3mm/で砂状~細密片状化する。	
421	116.18	116.37	116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。	-	-	-	116.18	116.37	116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。	
422	116.49	119.47	CM 挟在物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mm/で砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm/程度に細片状化する部分もある。	116.49	119.47	CM 挟在物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mm/で砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm/程度に細片状化する部分もある。	116.49	119.47	116.49~119.47m: CM 挟在物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mm/で砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部では径5~10mm/程度に細片状化する部分もある。	
423	117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mm/で硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mm/は弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mm/で硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mm/は弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	117.21	117.21	117.21m: 70° の割れ目に幅2mm/で硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mm/は弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	
424	118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm/程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm/程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	118.12	119.10	118.12~119.10m: 30° 前後と70~80° の割れ目が交差し、一部では径5~10mm/程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	
425	118.23	118.53	20~30° の「仲着割れ目」が10~20mm/間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。	118.23	118.53	20~30° の「仲着割れ目」が10~20mm/間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。	118.23	118.53	118.23~118.53m: 20~30° の仲着割れ目が10~20mm/間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。	
426	119.09	120.79	地質名欄(Gp)	119.09	120.79	(地質名欄)Ap	119.09	120.79	アブライトは周囲と異なる状況であるため追記した	
427	-	-	-	119.09	120.79	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	119.09	120.79	アブライトは周囲と異なる状況であるため追記した	
428	119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm/暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm/以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm/暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm/以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	119.47	119.47	119.47m: 40° の割れ目に幅1mm/暗緑色粘土脈(緑泥石)を挟む。径0.5mm/以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	

H27-B-2 119.47~122.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
429	119.47	120.00	(変質欄)3ランク	119.47	120.00	(変質欄)2ランク	119.47	120.00	(変質欄)2ランク	
430	119.47	120.00	CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	119.47~120.00m:CL 30~40° の割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。	
431	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状にはさまることが多い。	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	119.75	119.88	119.75~119.88m:幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	
432	-	-	堅硬 30~50° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	120.00	120.63	堅硬 30~50° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	120.00	120.63	120.00~120.63m:堅硬 30~50° の割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目に挟在物は分布しない。	
433	120.63	120.65	破砕帯(主せん断面120.65m)	120.63	120.65	破砕部(最新活動面120.65m)	120.63	120.65	●120.63~120.65m:破砕部 120.63~120.65m:粘土質状態(Hb) 上層12~32°で湾曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含むやや軟質な「粘土質硬状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 6/1)。厚さ15~25mm/原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
434	120.63	120.65	Hb 上層は12~32°で湾曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含むやや軟質な「粘土質硬状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 6/1)。厚さ15~25mm/原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	120.63	120.65	Hb 上層は12~32°で湾曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含むやや軟質な「粘土質硬状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 6/1)。厚さ15~25mm/原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	120.63	120.65	●120.63~120.65m:破砕部 120.63~120.65m:粘土質状態(Hb) 上層12~32°で湾曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む、やや軟質。オリーブ灰色を呈する。厚15~25mm。 120.65m:粘土土状(Hc-1) 傾斜32°で下層とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3mm。	
435	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ1~3mm/原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ1~3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	120.65	120.65	●120.63~120.65m:破砕部 120.63~120.65m:粘土質状態(Hb) 上層12~32°で湾曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む、やや軟質。オリーブ灰色を呈する。厚15~25mm。 120.65m:粘土土状(Hc-1) 傾斜32°で下層とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3mm。	
436	120.63	120.65	(岩級区分欄)D	120.63	120.65	(岩級区分欄)CM	120.63	120.65	(岩級区分欄)CMIに含める	
437	120.65	121.03	CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上層側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上層側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	120.65~121.03m:CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上層側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	
438	121.03	122.23	CH 堅硬。割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	CH 堅硬。割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	121.03~122.23m:CH 堅硬。割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点多く、全体に緑灰色を帯びる。	
439	122.23	122.42	(変質欄)3ランク (岩級区分欄)CL	122.23	122.42	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)CM	122.23	122.42	(変質欄)2ランク (岩級区分欄)CMIに含める	
440	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーで分離・細片化し易いものが多い。	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーで分離・細片化し易いものが多い。	122.23	122.42	122.23~122.42m:CL 上位より風化がやや進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーの強打で分離・細片化し易いものが多い。	
441	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマーで分離し易い付着割れ目を含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。径5~10mm褐色のかり長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマーで分離し易い付着割れ目を含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。径5~10mm褐色のかり長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	122.42~122.97m:CM 堅硬であるが、一部でハンマーの強打で分離し易い付着割れ目を含む。割れ目は薄く褐色化するが、挟在物は分布しない。径5~10mmの褐色のかり長石の斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	
442	-	-		122.30	122.89	高角度割れ目が連続する。	122.30	122.89	122.30~122.89m:高角度割れ目が連続する。	

H27-B-2 122.97~127.41m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
443	122.97	133.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	122.97~123.41m:CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
444	122.97	123.41	(岩級区分欄)CL	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
445	133.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「ゆる割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm/層緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「潜在割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm/層緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	123.41~125.38m:CM 一部で密着度の低い割れ目や潜在割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するものがある。ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は認められない。全体に径1~2mmの暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	
446	124.30	124.30	124.30m付近でコアが片状化するが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した乱れである。	-	-	-	124.30	124.30	124.30m付近は、コアチューブ引上げ時の擾乱によりコアが片状化する。	
447	124.90	129.59	(地質名欄)Gp	124.90	129.59	(地質名欄)Ap	124.90	129.59	アブライトは周囲と異なる状況であるため追記した	
448	-	-	-	124.90	129.59	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	124.90	129.59	アブライトは周囲と異なる状況であるため追記した 花崗斑岩との境界は漸移的である。	
449	125.00	125.38	白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-	125.00	125.38	125.00~125.38m:白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	
450	125.38	125.70	(岩級区分欄)CL	125.38	125.70	(岩級区分欄)CM	125.38	125.70	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)CMに含める	
451	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。 ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。 ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。	125.38	125.70	表現の適正化(mm) 125.38~125.70m:CL 密着度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。開口化するものも多い。	
452	125.38	125.38	50° 割れ目径10mmはφ3~5mm/mの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。	125.38	125.38	50° 割れ目径10mmはφ3~5mmの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。	125.38	125.38	表現の適正化(径い、mm、伴う) 125.38m:50°の割れ目径10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。	
453	125.70	126.25	CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆる割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-	125.70	126.25	125.70~126.25m:CM 一部で密着度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	
454	126.25	127.00	(変質欄)3ランク	126.25	127.00	(変質欄)2ランク	126.25	127.00	周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した	
455	126.25	127.41	CL 一部で50~60°の割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ(C)単片主体部は灰褐色(1.5FR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はに5A)褐色(1.5FR 6/4)の色調で、全体では後者の色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	CL 一部で50~60°の割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ(C)単片主体部は灰褐色(1.5FR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はに5A)褐色(1.5FR 6/4)の色調で、全体では後者の色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	表現の適正化(径い、mm、挟む) ・顔記の修正(「色」の記載漏れ、助詞の記載漏れ) 126.25~127.41m:CL 一部で50~60°の割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また、径1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はに5A)褐色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。	

H27-B-2 127.41~128.97m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事	記事		記事内容			
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか?		追加変更した情報が正しく転記されているか?			適正化した記事内容		
		<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					
456	127.41	127.48	破砕帯(主せん断面127.41m)	127.41	127.48	破砕部(最新活動面127.41m)			
457	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は灰白(10YR 8/1)。厚さ0.5~1mm/m	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は灰白色(10YR 8/1)。厚さ0.5~1mm。含まれる細粒部は断片的に分布し、連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。			
458	127.41	127.48	H 上端50°で直線的。下端は50~60°で湾曲して連続。φ3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のs(す)にマンガン染染を伴う。色調はふい黄褐色(10YR 7/4)。厚さ40~45mm/m	127.41	127.48	H 上端50°で直線的。下端は50~60°で湾曲して連続。φ3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。全体に粘土混じり硬状を呈する。127.47mに上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染染を伴う。色調はふい黄褐色(10YR 7/4)。厚さ40~45mm。硬質、含まれる細粒部は断片的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	127.41	127.48	
459	127.41	127.48	(岩級区分)ID	127.41	127.48	(岩級区分)CL	127.41	127.48	
460	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。	127.48	128.82	
461	127.82	127.83	上端60°、下端91° 割れ目に囲まれ、φ2~3mm/破砕状細片を含む固結した中粒~粗粒砂状を呈する。粘土は挟まない。	127.82	127.83	上端60°、下端61° 割れ目に囲まれ、φ2~3mm/破砕状細片を含む硬質中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は挟まない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られ、下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	127.82	127.83	
462	128.82	128.97	(岩級区分)ID	128.82	128.97	(岩級区分)CL	128.82	128.97	
463	128.82	128.97	破砕帯(主せん断面128.87m)	128.82	128.97	破砕部(最新活動面128.87m)			
464	128.82	128.87	H 上端30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土帯で、下端83°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、φ3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm/m	128.82	128.87	H 上端30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土帯で、下端83°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、φ3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤色(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm。やや硬質で、含まれる細粒部は断片的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
465	128.87	128.88	Hc-2 50°で上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質が混じり粘土状(ガウジ)を呈する。色調は暗緑灰色(5G 4/1)。厚さ3~5mm/m	128.87	128.88	Hc-2 50°で上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質が混じり粘土状(ガウジ)を呈する。色調は暗緑灰色(5G 4/1)。厚さ3~5mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	128.82	128.87	
466	128.88	128.97	H 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30° 割れ目が多くφ5~15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm/m	128.88	128.97	H 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30° 割れ目が多くφ5~15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤色(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。やや硬質で、含まれる細粒部は断片的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			

H27-B-2 128.97~133.75m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
467	128.97	129.95	CL	-	-	-		128.97	129.95	128.97~129.95m:CL	-
468	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。マンガ ン汚染が見られる。	表現の適正化(古い) マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	129.11	129.26	129.11~129.26m:風化が進み、割れ目ぞいに砂状~細片状化する。マン ガン汚染が見られる。	-
469	129.95	130.79	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mm/m砂をはさ むが、これ以外では挟在物は分布しない。	129.95	130.79	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mm砂を挟む が、これ以外では挟在物は分布しない。	表現の適正化(古い, mm, 挟む)	129.95	130.79	129.95~130.79m:CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在 物は分布しない。	-
470	-	-	-	129.95	130.22	アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	周囲に比べて珪晶をほとんど含まないためアフライトに変更した	129.95	130.22	129.95~130.22m:アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	-
471	129.95	130.22	(地質名欄)Gp	129.95	130.22	(地質名欄)Ap	上記の変更に伴い、地質名を変更した	129.95	130.22	(地質名欄)アフライト	-
472	130.58	130.58	80°とこれと交差する40~50°割れ目ぞいで幅1~ 3mm風化砂はさむ。粘土は伴わない。また80° 割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。	130.58	130.58	80°とこれと交差する40~50°割れ目ぞいで幅1~ 3mm風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80° 割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合 と横断する場合がある。切っ ていない 。 割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統 的な割れ目も存在しない。	80°割れ目を横断する割れ目が見られるため「切っている」を「止 めている場合と横断する場合がある」に変更した 割れ目及び周辺の状態について追記した 表現の適正化(古い, 挟む, mm)	130.58	130.58	130.58m:80°とこれと交差する40~50°の割れ目ぞいで幅1~3mmの風 化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割 れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目周囲の岩盤には原 岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
473	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。 また部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1mm 以下)を伴う。	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。 また、部分的に淡緑灰~灰白色粘土細脈(幅1mm 以下)を伴う。	表現の適正化(古い, mm)	130.79	131.95	130.79~131.95m:CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以 下の淡緑灰~灰白色粘土細脈を伴う。	-
474	131.79	131.79	55°割れ目上端側は厚10~15mm砂状化。灰白 色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	55°割れ目上端側は幅10~15mm砂状化。灰白色 粘土細脈も伴う。	表現の適正化(mm, 厚⇒幅) 上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した	131.79	131.79	131.79m:55°の割れ目上端側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土 細脈も伴う。	-
475	-	-	-	131.79	134.23	アフライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。	周囲に比べて珪晶をほとんど含まないためアフライトに変更した	131.79	134.23	131.79~134.23m:アフライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。	-
476	131.79	133.75	(地質名欄)Gp	131.79	133.75	(地質名欄)Ap	上記の変更に伴い、地質名を変更した	131.79	133.75	(地質名欄)アフライト	-
477	131.95	132.89	D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20mm岩片を 含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~ 2m/mの細脈として分布。	131.95	132.89	D 風化で硬質な砂状化が拡大し、φ5~20mm岩片を 含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~ 2mmの細脈として分布。	表現の適正化(締った⇒硬質な, mm, 厚⇒幅)	131.95	132.89	131.95~132.89m:D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈す る。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。	-
478	132.41	132.60	硬さ「C」の岩片状コア。	-	-	-		132.41	132.60	132.41~132.60m:硬さ「C」の岩片状コア。	-
479	131.95	132.18	硬さ「C」岩片のみ採取され。風化砂状部は掘削時 に流失したものと推定される。	-	-	-		131.95	132.41	131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され。風化 砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	記事内容が同じであるため、132.32~132.41mの深度も含めて記載した
480	131.95	132.89	(変質欄)3ランク	131.95	132.89	(変質欄)2ランク	周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更 した	131.95	132.89	(変質欄)2ランク	-
481	132.32	132.41	硬さ「C」岩片のみ採取され。風化砂状部は掘削時 に流失したものと推定される。	-	-	-		-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
482	132.89	133.24	CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1~2mm程度に砂状化し た砂をはさむ。	132.89	133.24	CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1~2mm程度に砂状化し た砂を挟む。	表現の適正化(古い, 挟む, mm)	132.89	133.24	132.89~133.24m:CL 一部の割れ目ぞいは幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。	-
483	133.15	133.24	一部で砂状化が拡大している。	-	-	-		133.15	133.24	133.15~133.24m:一部で砂状化が拡大している。	-
484	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変 質は弱い。	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。 変質は弱い。	表現の適正化(締った⇒硬質な)	133.24	133.49	133.24~133.49m:D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	-
485	133.24	133.49	(岩級区分欄)D	133.24	133.49	(岩級区分欄)CL	区間長が90cm未満のため、周囲の岩級に含めた	133.24	133.49	(岩級区分欄)CLに含める	-
486	133.49	133.76	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多 くなっている。	133.49	133.75	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多 くなっている。	振記の修正(133.76⇒133.75)	133.49	133.75	133.49~133.75m:CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。	-

H27-B-2 133.75~134.77m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)						
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事								
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度								
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事を削除・変更・追記した理由							
487	133.75	133.92	破砕帯(主せん断面133.75m)	133.75	133.92	破砕部(最新活動面133.75m)			●133.75~133.92m:破砕部 133.75m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m:粘土質状部(Hb) 133.75~133.80m:粘土質状部(Hb)で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色。下端側がオリーブ灰色を呈する。幅100mm。			●133.75~133.92m:破砕部 133.75m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない。軟質。明緑灰色を呈する。幅0.5~1mm。 133.75~133.80m:粘土質状部(Hb) 133.75~133.80m:粘土質状部(Hb)で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む。緑灰色を呈する。幅30~40mm。 133.80~133.92m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色。下端側がオリーブ灰色を呈する。幅100mm。			
488	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(カウジ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1m/m	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(カウジ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									
489	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm/m	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			133.75	133.92	●主主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。硬さのみや軟質であるため硬さを変更した。 ●主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、直線的なせん断面に変更した。 ●細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ●表現の適正化(mm) ●表記の修正(「色」の記載漏れ)				
490	133.80	133.92	H 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)。下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ100mm/m	133.80	133.92	H 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)。下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ100mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									
491	133.75	133.92	(岩級区分欄)D	133.75	133.92	(岩級区分欄)CL			133.92	134.15	133.92~134.15m:硬さ「D」主体				
492	133.92	134.15	硬さ「G」主体	133.92	134.15	硬さ「D」主体			133.75	133.92	(岩級区分欄)CLに含める				
493	134.15	134.23	破砕帯(主せん断面134.15m)	134.15	134.23	破砕部(最新活動面134.15mか134.19mの可能性あり)			133.92	134.15	●134.15~134.23m:破砕部 134.15~134.19m:粘土状部(Hc-1) 傾斜65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下層側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上層側はオリーブ灰色。中央部は明オリーブ灰色。下層側は暗オリーブ灰色で、3色の塊状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。厚さ30mm以上。 色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ30mm/m以上。			●134.15~134.23m:破砕部 134.15~134.19m:粘土状部(Hc-1) 傾斜65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。下層側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。上層側はオリーブ灰色。中央部は明オリーブ灰色。下層側は暗オリーブ灰色で、3色の塊状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。厚さ30mm以上。 色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ30mm/m以上。	
494	134.15	134.19	Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(カウジ)。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。色調は上端側・オリーブ灰(2.5GY 5/1)。中央・明オリーブ灰(2.5GY 7/1)。下層・暗オリーブ灰(2.5GY 4/1)で3色の塊状模様を呈する。厚さ20mm/m	134.15	134.19	Hc-1 65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(カウジ)。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。色調は上端側・オリーブ灰(2.5GY 5/1)。中央・明オリーブ灰(2.5GY 7/1)。下層・暗オリーブ灰(2.5GY 4/1)で3色の塊状模様を呈する。厚さ20mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			134.15	134.23	●コアに合わせて傾斜角を変更した ●表現の適正化(mm) ●表現の統一(カウジ→Hc-1)に含んで表現 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ●表記の修正(「色」の記載漏れ)				
495	134.19	134.23	H 上端75°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ30mm/m以上。	134.19	134.23	H 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ30mm/m以上。 含まれる岩片は硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は塊状割れのため不明。			134.15	134.23	●コアに合わせて傾斜角を変更した ●表現の適正化(mm) ●表現の統一(カウジ→Hc-1)に含んで表現 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ●表記の修正(「色」の記載漏れ)				
496	134.15	134.23	(岩級区分欄)D	134.15	134.23	(岩級区分欄)CL			134.15	134.23	(岩級区分欄)CLに含める				
497	134.23	134.65	(実質欄)3ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク			134.23	134.65	(実質欄)2ランク				
498	134.23	134.77	CL 細粒状硬質(ドレライト)下壁側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	CL アブライト下壁側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。			134.23	134.77	134.23~134.77m:CL アブライト下壁境界の直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。				

H27-B-2 134.23~145.65m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
499	134.23	134.33	D ₀ とG ₀ が混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	A ₀ とG ₀ が混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	トドライトではなくアブライトであるため変更した	134.23	134.33	134.23~134.33m:アブライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。	-	
500	134.77	135.34	D 土砂状~φ10mm/細岩片状部が主体	134.77	135.34	D 土砂状~φ10mm細岩片状部が主体		134.77	135.34	134.77~135.34m:D 土砂状~径10mmの細岩片状部が主体。	-	
501	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い中割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がるφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い中割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がるφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。		135.34	145.65	135.34~145.65m:CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。硬さ「B」は135.34~136.50mに小さく分布。一部で密着度の低い中割れ目を含む。 136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目沿いに風化が広がる径5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ「E」となる。	-	
502	136.40	-	136.40m以深でφ2~3mm/mの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深でφ2~3mmの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。		136.40	-	136.40m以深は径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。	-	
503	136.54	136.54	35° 幅10~15mmでアブライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.54	35° 幅10~15mmでアブライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。		136.54	136.54	136.54m、35°で幅10~15mmのアブライトが径5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	-	
504	137.44	137.53	φ5~10mm/破砕状の細礫主体。	137.44	137.53	φ5~10mm破砕状の細礫主体。連続する細礫部は伴わない。	初生的な割れ目の姿勢が見られるため破砕による細礫状ではなく、細礫間の基質が認められないためコアチューブ引き上げ部の擾乱によるものと判断して「破砕状」を削除した 含まれる細礫部について追記した 表現の適正化 (mm)	137.44	137.53	137.44~137.53m:径5~10mmの細礫主体。連続する細礫部は伴わない。	-	
505	137.53	137.60	締った砂状部も含む。	137.53	137.60	硬質な砂状部も含む。		137.53	137.60	137.53~137.60m:硬質な砂状部を含む。	-	
506	137.68	137.68	色が変化。	-	-	-		-	-	-	・色調欄から読み取れるため記載しない	
507	-	137.68	137.68m以深は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。	-	-	-		-	137.68	137.68m以深はカリ長石が多く、橙色を帯びる。	-	
508	137.68	-	137.68m以深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。	-	-	-		137.68	-	137.68m以深は緑泥石を多く含む淡緑灰色を帯びる。	-	
509	-	-	-	137.82	137.97	弱い変質を受け、砂~細礫状を呈する。やや軟質。	変質を受けた砂~細礫状部は周囲と異なる状態であるため追記した	137.82	137.97	137.82~137.97m:弱い変質を受け、やや軟質な砂~細礫状を呈する。	-	
510	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、厚1~2mm/mの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、幅1~2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。		138.00	138.30	138.00~138.30m:割れ目の一部は砂状化し、幅1~2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	-	
511	-	-	-	138.40	139.20	アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。	周囲に比べて結晶をほとんど含まないためアブライトに変更した	138.40	139.20	138.40~139.20m:アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。	-	
512	138.40	139.20	(地質名欄)G ₀	138.40	139.20	(地質名欄)A ₀	上記の変更に伴い、地質名を変更した	138.40	139.20	(地質名欄)アブライト	-	
513	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mm/方解石脈はさむ。この脈は138.87m、38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mm/方解石脈はさむ。この脈は138.87m、38° 割れ目で切られている。	方解石脈は直線的に連続しているものではなく不規則に分布する。 38° 割れ目付近でも方解石脈は屈曲しており切られているわけではないため38° 割れ目との関係の記載を削除した 表現の適正化 (挟む、mm) 割れ目及び隣接の状況について追記した	138.75	138.75	138.75m、80°の割れ目に幅1mmの方解石脈を挟む。	-	
514	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm/程度砂状化。	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm/程度砂状化。		139.67	139.67	139.67m、75°の割れ目の一部が幅5mm程度砂状化する。	-	
515	139.87	140.04	30°と80° 割れ目が細かく交差し、φ5~10mm/細礫状~粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.87	140.04	30°と80° 割れ目が細かく交差し、φ5~10mm/細礫状~粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。		139.87	140.04	139.87~140.04m:30°と80°の割れ目が細かく交差し、径5~10mmの細礫状~粗粒砂状に砕ける。粘土は殆んど伴わない。	-	
516	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1~5mm/程度にφ1~3mmに砂状~片状化する割れ目も多く含む。 割れ目は密着度の低い「中割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1~5mm/程度にφ1~3mmに砂状~片状化する割れ目も多く含む。 割れ目は密着度の低い「中割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。		140.04	145.65	140.04~145.65m:厚さ10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1~5mm程度で径1~3mmに砂状~片状化する割れ目も多く含む。割れ目は密着度の低い「中割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。	-	

H27-B-2 141.10~148.01m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
517	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5~10mm/硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5~10mm/硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	・表観の適正化(沿い, mm)	141.10	141.18	141.10~141.18m:40°の割れ目ぞいに砂状化する。径5~10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	-
518	-	-	-	アフライト 上下端とも機械割れのため不明	・周囲に比べて既晶をほとんど含まないためアフライトに変更した	141.35	141.96	141.35~141.96m:アフライト 上下端とも機械割れのため不明。	-
519	141.35	141.96	(地質名欄)Gp	(地質名欄)Ap	・上記の記載に伴い、地質名を変更した	141.35	141.96	(地質名欄)アフライト	-
520	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10mm/主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2mm程度に砂状化。粘土は伴わない。	互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10mm/主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2mm程度に砂状化。粘土は伴わない。	・表観の適正化(ほぼ、伴う, mm)	141.96	142.23	141.96~142.23m:互いにほぼ直交する60°と30°の割れ目が細かく交差し、径5~10mm/主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。	-
521	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目や中着割れ目を多く含む。	割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目や中着割れ目を多く含む。	・表観の適正化(やや)	142.91	144.90	142.91~144.90m:割れ目間隔は上下位に比べやや広がるが、密着度の低い割れ目や中着割れ目を多く含む。	-
522	143.57	143.70	上端60°、下端70°の割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10mm/石英を脈状に伴う。	上端60°、下端70°の割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10mm/石英を脈状に伴う。	・表観の適正化(沿い、伴う, mm)	143.57	143.70	143.57~143.70m:上端60°、下端70°の割れ目ぞいに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°で幅5~10mmの石英を脈状に伴う。	-
523	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5~20mm/で残留する岩片も含め、砂礫状~硬質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、φ5~20mm/で残留する岩片も含め、砂礫状~硬質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。	・表観の適正化(沿い、締った⇒硬質な, mm)	145.65	148.26	145.65~148.26m:D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、径5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~硬質砂状を呈する。一部で灰白~暗緑灰色粘土が脈状に分布する。	-
524	145.85	146.00	(風化欄)δランク (変質欄)βランク (岩級区分欄)D	(風化欄)γランク (変質欄)αランク (岩級区分欄)CL	・上位と同様の風化、変質の点度であるため風化、変質のランクを変更した。 ・下記のコアの硬さのランクの変更に伴い、CL級主体となるため岩級を変更した。	145.85	146.00	(風化欄)γランク (変質欄)αランク (岩級区分欄)CL	-
525	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Eランク	(コアの硬さ欄)Dランク	・コアに合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した。	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク	-
526	145.74	148.01	145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中石的に分布	-	-	145.74	148.01	145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」のコアが中石的に分布する。	-
527	146.65	146.91	深度と共に残留する岩片量が増加する	-	-	146.65	146.91	146.65~146.91m:深度と共に残留する岩片量が増加する。	-
528	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	・表観の適正化(沿い)	146.91	147.50	146.91~147.50m:硬さ「D」の岩片主体であるが、割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	-
529	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Eランク	(コアの硬さ欄)Dランク	・コアに合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した。	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク	-
530	146.91	148.26	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	・上記の変更に伴い、CL級主体となるため、147.65~147.81m、148.01~148.26m間も含めてCL級に変更した。	146.91	148.26	(岩級区分欄)CL	-
531	147.00	147.65	(風化欄)δランク (変質欄)βランク	(風化欄)γランク (変質欄)αランク	・周囲と比べての風化、変質の程度が異いため風化、変質のランクを変更した。	147.00	147.65	(風化欄)γランク (変質欄)αランク	-
532	-	-	-	上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	・割れ目ぞいの砂状化は周囲と異なる状況であるため追記した。	147.50	147.82	147.50~147.82m:上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	-
533	147.65	147.65	55° 割れ目に厚さ1~2mm/暗緑灰色緑泥石脈はさまむ。砂状~シルト状化している。	55° 割れ目に厚さ1~2mm/暗緑灰色緑泥石脈はさまむ。砂状~シルト状化している。	・表観の適正化(挟む, mm)	147.65	147.65	147.65m:55°の割れ目に幅1~2mmの暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化する。	-
534	147.81	148.01	硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。	-	-	147.81	148.01	147.81~148.01m:硬さ「C」のコアが残留。割れ目は多いが、挟在物は分布しない。	-

H27-B-2 148.26~151.88m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
535	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	148.26~149.19m:CL 上端55°、下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。	
536	148.68	148.68	50°、厚1~3mm暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1mm)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	50°、幅1~3mm暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1mm)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	148.68m:50°で幅1~3mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。同脈は径0.1mmの微細なセリサイトを少量伴う。	
537	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに厚1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。	
538	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し締まった砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂塊状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.69mは40°、厚さ1mm暗緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈を挟む。	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂塊状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.67mは40°、厚さ1mm暗緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈を挟む。	149.19	149.67	149.19~149.67m:D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片は径10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂塊状を呈する。灰白色粘土がわずかに点在する。下端の149.67mは40°で幅1mmの暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。	
539	149.19	149.67	(岩級区分欄)D	149.19	149.67	(岩級区分欄)CL	149.19	149.67	(岩級区分欄)CLに含める	
540	-	-	-	149.41	149.41	34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	149.41	149.41	149.41m:34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	
541	149.67	152.10	CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	-	-	-	149.67	152.10	149.67~152.10m:CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	
542	149.67	150.22	硬さCで割れ目の一部に砂などを挟む	149.67	150.22	硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67	150.22	149.67~150.22m:硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。	
543	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さ「D」に軟質化している。下端の150.52mは48°、幅1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さ「D」に軟質化している。下端の150.52mは48°、幅1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	150.22~150.52m:上下よりも変質し硬さ「D」に軟質化している。下端の150.52mは48°で幅1~2mmの砂~シルト状の緑泥石脈や微細な黄鉄鉱を伴う。	
544	150.22	150.52	(変質欄)3ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	
545	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが硬ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが硬ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	150.52~152.10m:硬さCで、一部で割れ目ぞいに弱く風化するが、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
546	150.52	-	150.52m以深は岩性にφ1~3mm暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は岩性にφ1~3mm暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は径1~3mmの暗緑灰色斑点が点在したり、割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが、粘土化などの劣化はない。	
547	151.40	151.60	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.88	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.88	151.40~151.88m:割れ目が密集し、径10mm程度の岩片状を呈する。割れ目の面の大半に挟在物は付着しない。	

H27-B-2 152.10~153.76m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
548	152.10	152.15	破砕帯(主せん断面152.11m)	152.10	152.15	破砕帯(最新活動面152.11m)	152.10	152.15	<ul style="list-style-type: none"> 用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 		
549	152.10	152.11	H 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5~10mm/mに硬さ「D」で岩片化。 色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15mm/m	152.10	152.11	H 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、φ5~10mmに硬さ「D」で岩片化した粘土混じり礫状を呈する。 色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	152.10	152.11	<ul style="list-style-type: none"> 主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、下位のHc-2の粘土に変更した 破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した 表現の適正化(mm) 傾記の修正(「色」の記載漏れ) 		
550	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/mの石英粒、岩片を約20%程含む軟質粘土(ガウジ)、厚さ1mm/m、暗緑灰色。	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mmの石英粒、岩片を約20%程含む軟質な微細しり粘土(ガウジ)、厚さ1mm、暗緑灰色。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	152.10	152.15	<ul style="list-style-type: none"> 表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した 表現の適正化(mm) 		
551	152.11	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5mm岩片主体(一部φ10mm/m)、岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ20~30mm/m	152.11	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5mm岩片主体(一部φ10mm)、岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。 色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ20~30mm。 やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			<ul style="list-style-type: none"> 硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した 表現の適正化(mm) 傾記の修正(「色」の記載漏れ) 		
552	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」、割れ目が多く、152.51m以深では互いに交差する割れ目でφ10~20mm程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を幅1mm程度挟むことがある。	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」、割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目でφ10~20mm程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を幅1mm程度挟むことがある。	152.15	153.59	<ul style="list-style-type: none"> 交差する割れ目の傾斜を追記した 表現の適正化(挟む、mm) 傾記の修正(単位及び「幅」の記載漏れ) 		
553	152.10	152.15	(岩級区分欄)D	152.10	152.15	(岩級区分欄)CL	152.10	152.15	<ul style="list-style-type: none"> 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた 		
554	153.30	153.43	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	緑泥石化が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	<ul style="list-style-type: none"> コアに合わせて岩芯が緑泥石化している区間に変更した 傾記の修正(緑泥石が進み⇒緑泥石化が進み) 		
555	153.59	154.53	D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大。岩片ぞいの割れ目は残留する。	153.59	154.53	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化(沿い) 		
556	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化(締った⇒硬質な) 		
557	-	154.00	154.00m以深は岩片量が多い。	-	-	-	-	154.00	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化(伴う、mm) 		
558	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mmのセラサイトを伴う。	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが、赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mmのセラサイトを伴う。	153.60	153.76	<ul style="list-style-type: none"> 表現の適正化(伴う、mm) 		

H27-B-2 154.53~159.78m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
559	154.53	154.71	破砕帯(主せん断面154.58m) Hb	154.53	154.71	破砕帯(最新活動面154.58m) Hb	用語統一(後述第一破砕帯) 最新活動面という用語に統一			
560	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含むやや軟質な「粘土質硬塊」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟質。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm/m	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含むやや軟質な「粘土質硬塊」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟質。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm。 含まれる細粒部は細目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	硬主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した。硬さを多く含むやや軟質であったため硬塊を変更した。 細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 *表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) *表記の修正(「色」の記載漏れ)	●154.53~154.71m:破砕帯 154.53~154.58m:粘土質硬塊部(Hb) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ[D]岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の緑灰色粘土は軟質である。上端は明緑灰色、中央部は緑灰色、下端は灰褐色で連続を呈する。幅40~50mm。 154.58m:粘土状部(Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)に含む。軟質。上下端側が褐色、中央部が灰赤色で連続を呈する。幅5mm。 154.58~154.71m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれと斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化する。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土脈が、また、わずかに幅1mmの軟質灰白色粘土脈が分布する。色調は上端・明緑灰色(10G 7/1)、中央・緑灰(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ3mm/m		
561	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は上下端側が褐色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤色(2.5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm/m。	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(ガウジ)。色調は上下端側が褐色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤色(2.5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	*表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) *細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 *表現の適正化(mm) *表記の修正(「色」の記載漏れ)	154.53	154.71	
562	154.58	154.71	Hg 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれと斜交する割れ目が多く、φ3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土脈が、また、わずかに幅1mmの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調は上端・明緑灰(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ3mm/m	154.58	154.71	Hg 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれと斜交する割れ目が多く、φ3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土脈が、また、わずかに幅1mmの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調は上端・明緑灰(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ3mm/m。 やや軟質。含まれる細粒部は細目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	*硬塊、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 *表現の適正化(mm) *表記の修正(「色」の記載漏れ、厚さ5mmはコアと不整合であり、上端と下端の傾斜の向きが異なり、幅を測定できないため削除した)			
563	154.71	155.00	D 軟質化著しいが、割れ目は残留する	154.71	155.00	D 軟質化著しいが、割れ目は残留する	*表現の適正化(軟質化)	154.71	155.00	154.71~155.00m:D 軟質化著しいが、割れ目は残留する。
564	155.00	162.00	CL 割れ目自体は暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mm/mで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	162.00	CL 割れ目自体は暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mm/mで砂~シルト状化する部分も認められる。	*表記の修正(162.00⇒160.00、余部区間の削除) *表現の適正化(扱い、mm)	155.00	162.00	155.00~160.00m:CL 割れ目自体は暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。
565	155.00	158.00	(実質層)3ランク	155.00	158.00	(実質層)2ランク	*下位と比べて実質の程度が弱いため実質のランクを2ランクに変更した	155.00	158.00	(実質層)2ランク
566	-	-	-	155.89	155.89	88°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する	*高角度の緑泥石脈を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	155.89	155.89	155.89m:88°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。
567	156.25	156.25	75~80°、厚さ7~8mm/mでφ2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	156.25	156.25	75~80°、厚さ7~8mm/mでφ2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	*表現の適正化(mm)	156.25	156.25	156.25m:75~80°で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。
568	156.72	156.72	75~80°、厚さ1~10mm/mの硬質な砂状部がφ1~2mmGp扁平硬塊部を伴って上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には緑泥と緑泥石粘土フィルムが付着する。	156.72	156.72	75~80°、厚さ1~10mmの硬質な砂状部がφ1~2mmGp扁平硬塊部を伴って上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には緑泥と緑泥石粘土フィルムが付着する。 156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。両側の暗緑灰色の細粒部は様々な方向の割れ目に充填している。	*156.67mに高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られるため挿入物を破砕によるものではないと判断した。 *細粒部の細粒部の分布について追記した。 *表現の適正化(硬、mm) *表現の統一(固結⇒硬質)	156.72	156.72	156.72m:75~80°で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平硬塊部を伴って上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には緑泥と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。両側の暗緑灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。
569	158.00	158.20	φ5~10mm/m破砕硬塊部と硬質な砂状部からなり砂礫状を呈する。	158.00	158.20	φ5~10mm破砕硬塊部と硬質な砂状部からなり砂礫状を呈する。	*深度158.00~157.00m及び157.00m付近に同様な性状の砂礫硬塊部が認められ、それらは様々な方向の割れ目に侵入している。また、系統的な割れ目も存在しない。これらのことから、砂礫硬塊部ではないと判断し、「破砕」を削除した。 *表現の適正化(mm) *表現の統一(固結⇒硬質)	158.00	158.20	158.00~158.20m:径5~10mmの硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。
570	159.06	159.33	割れ目自体は暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も層状で暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	159.06	159.33	割れ目自体は暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も層状で暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	*表現の適正化(扱い、mm)	159.06	159.33	159.06~159.33m:割れ目自体は暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩まで暗緑灰色化する。
571	159.78	159.78	70~80°、厚さ1~10mm/m方解石が縮しながら連続する。	159.78	159.78	70~80°、厚さ1~10mm方解石が縮しながら連続する。	*表現の適正化(mm、厚の追加)	159.78	159.78	159.78m:70~80°で幅1~10mmの方解石脈が縮しながら連続する。

余白

H24-B14-2